

令和7年度森林吸収源インベントリ情報整備事業東北ブロック現地講習会報告

開催日：2025年5月22日（木）

時間：8時40分～17時30分

場 所：ID040010（宮城県七ヶ宿町字嶽家老国有林）

受講者：（株）宮城環境保全研究所（7名）

講 師：小野（責任者）、森下（森林総研東北支所）、釣田、平井（森林総研立地環境研究領域）

場所の概要：調査プロットは駐車位置から350mほど北西に位置し、10分ほど斜面を登ったところに中心杭があった。調査プロットはスギ人工林で、カエデ、クロモジなどの広葉樹も見られた。中心杭から東西方向は傾斜30～40度で一部45度以上の急傾斜、南北方向は東西方向ほどではないものの傾斜20度程度あり全体的に傾斜がきつく、移動は容易ではなかった。

講習会概要：時折雨が激しく降る中、駐車地点で調査用具・野帳の所持確認を行った後、調査プロットに移動した。調査プロットでは全ての杭がすぐに見つかったものの、急傾斜と悪天候のためライン作成に時間を要した。並行して、雨による調査への影響を最小限にとどめるために、四方位の土壤炭素蓄積量調査地点直上にブルーシートを張った。林相写真を撮影後、まず全員で、枯死木調査の講習を行った。講習はより急傾斜な東西ラインで斜面上部から下部にむかっておこない、特に根株調査について、根株直径、地際直径、高さの調査方法について詳しく指導した。その後、南北ライン調査と土壤炭素蓄積量調査班に分かれ講習会を進め、土壤断面の粗掘りあるいは整形まで進めたところで、昼食をとった。お昼過ぎには雨はほぼやんだが、急傾斜であるため堆積有機物と土壤試料採取の際は、足場を確保するなどの注意を要した。15時半頃にはどの調査地点でも一通りの講習を終え、調査プロット下の平らな作業道上で、試料の確認の後、化学分析用の混合試料の作成作業をおこなった。17時すぎに駐車箇所に戻り、試料と野帳の記載事項を確認して、講評および質疑応答をおこない、17時半頃に講習会を終了した。

指摘事項：

- ・堆積有機物層のL, F, Hの各厚さは、土壤断面の幅全体の平均的厚さを記載すること、この厚さが堆積有機物採取枠内の厚さと大きく異なる場合は採取枠内の各層の平均的な厚さを様式A4に備考として記載することを指導した。
- ・傾斜地にある根株の測定の際、根株が傾いている場合は、地際高の測定は根株面の主軸方向と平行に測定することを確認した。
- ・化学分析用土壤試料の採取の際、レキや植物根に付着する土壤を試料に入れた後、レキや根は取り除いてよいことを指導した。
- ・断面写真のみから判断できないこと、例えば、細かいレキが多いことや、断面に現れた穴（動物の移動跡、巨レキの脱落等）や周囲と異なる色合い（斑紋、植物根跡等）については、備考欄に記載するよう指導した。



写真1 雨が強かったため、集合場所にて挨拶と自己紹介をおこなった。



写真2 土壌調査地点を雨から保護するためにブルーシートを張った。



写真3 傾斜地にある根株の測定方法を指導する講師と受講者。



写真4 調査地点Eでは50度近い急傾斜で作業を進めた。



写真5 経験豊富な受講者が、未経験受講者に土壌採取方法を教える様子。



写真6 最後の講評の様子。雨はすっかりあがっていた。